



スクラッチ

うたしろさく 歌代朔作 しょぼう あかね書房

中三の夏。コロナ禍で、美術部の僕が特選をねらっていた美術展の審査が中止になった。同級生の鈴音は、バレエ部の大会がなくなって不機嫌だ。審査がなくなったって絵は描ける。大会がなくなったってバレエはできる。「平常心」。何度この言葉を自分に唱え続けてきただろう。洪水で家を失った小四の夏から、僕はあざやかな色ばかり選んで描いてきた。でも、鈴音の不注意で汚れた絵を見て気づいた。この絵は嘘っぽいって思っていたことに。いつぞ、真っ黒に塗りつぶせ。

